

スギタマバエによるスギ被害量の研究 (Ⅲ)

— 樹下植栽の調査例 —

林業試験場九州支場 吉田成章

生育良好なスギ林ではスギタマバエによる被害は次年度春芽数に影響しないことをⅡ報で報告した。しかし環境条件が悪い場合相乗的な影響も考えられる。施業上の植栽条件のうち樹下植栽もそのような悪条件を伴っていると思われたので、光条件の測定と共に調査を行った。

材料及び方法

試験地は菊池営林署茂田井国有林中で50年生アヤスギ樹下の4年生ヤブクグリについて調査した。

調査方法はⅡ報の要領に従って、下木のまま1974年度の1芽の被害葉数と同芽の1975年度新芽数について調査した。抽出範囲は1973年度幹以上についてである。

光の調査は下木の南側約50cmの樹高8分目位置で2cm×2cmの大きさのジアゾ感光紙によって林内積算日射(林外に対する比)が測定された。照度の測定

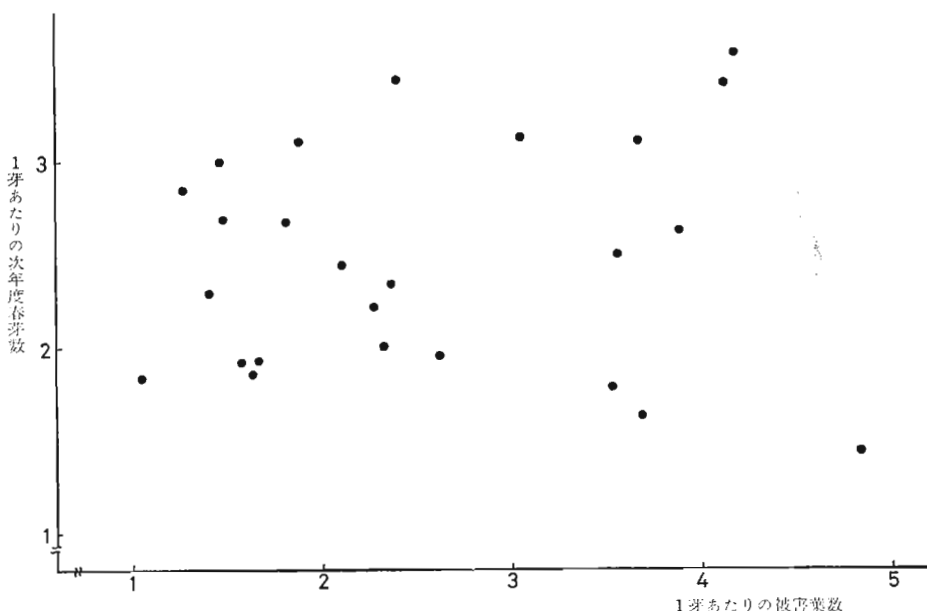
時間は1975年8月1日の12時から8月2日11時までである。

データを心よく提供された飯盛功氏に感謝する。

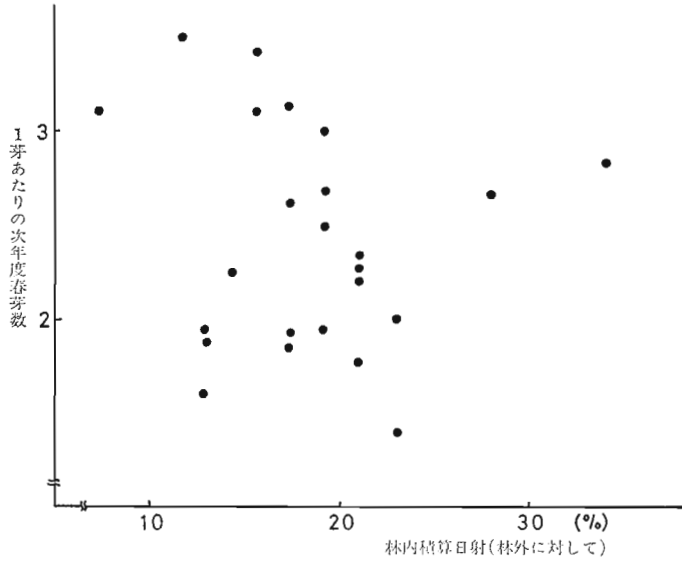
結果及び考察

この試験区の平均的林内積算日射は19.1%であるため、光環境としてはそんなに劣悪であるとは考えられないこともあって、これ以下の照度の場合についても調査する必要があると思われる。また林内積算日射のデータは1日分についてのみであるため、問題は残るが、光環境測定技術の確立にまつ外はない。

図1に1芽あたりの被害葉数と次年度春芽数の関係が示されている。スギタマバエ被害の増大による次年度春芽数の減少の傾向はみられず、また図2に示すように林内積算日射と次年度春芽数との関係も明確なものではないと思われる。



図一1 樹下植栽スギの1芽あたりの被害葉数と次年度春芽数の関係



図—2 樹下植栽スギの林内積算日射と1芽あたりの次年度春芽数の関係